

## INDEX

自然共生研究センターでは、大河川・中小河川・ダム・情報発信の4つの研究領域について、研究を進めています。各報告の研究領域は次のアイコンで示されています。



## ① 大河川

氾濫原環境の劣化機構の解明と  
保全手法に関する研究



## ② 中小河川

多自然川づくりに関する研究



## ③ ダム

ダム下流域の環境評価と  
改善手法に関する研究



## ④ 情報発信

河川環境の効果的な  
情報発信手法に関する研究



## 20周年特別記念号／目次

平成30年、自然共生研究センターは開所20年を迎えます	1
自然共生研究センター20年の軌跡	2-5
河川環境の未来を考えて活動する	
自然共生研究センターの主な活動記録	6.7
 氾濫原環境の劣化機構と修復に関する研究 大河川に特徴的な氾濫原環境の保全を目指して	8.9
 中小河川における多自然川づくり推進のための研究 中小河川の課題を理解し、現場で使える技術を開発する	10.11
 ダム周辺生態系の再生事業に関する研究 ダム下流の生物に配慮した適切な土砂供給を目指して	12.13
 市民の川への関心を喚起するための研究 官民連携の川づくり・河川管理を目指して	14.15
河川環境研究の発展に向けてのメッセージ	
自然共生研究センターのOB・OGより	16-19
実験河川の研究特集	20.21

## 平成30年、自然共生研究センターは開所20年を迎えます

自然共生研究センターは平成10年11月に開所し、今年度で20周年を迎えます。本号では当センター開所20周年特別記念号として、これまでの成果を振り返りたいと思います。

当センターの研究は主として、①大河川、②中小河川、③ダム、④情報発信の4つを軸に進めています。大河川については、直轄河川の河道内氾濫原環境の機能や健全性評価について研究を進め、その成果は環境と調和した治水事業に活かされています。中小河川については、川の姿が大きく変わる災害復旧時の河道計画・設計のレベルアップに資する計画論的研究や、環境・景観に配慮された構造物の技術開発を進め、「多自然川づくりポイントブックIII」や「美しい山河を守る災害復旧基本方針」等に成果を反映してまいりました。ダムについては、ダム下流の生物に配慮した適切な土砂還元手法について検討しました。情報発信については、河川環境をよりよく理解するための方法論を環境教育プログラムや展示ツールを通じて開発し、その成果を検証することで、さらに改善する段階にきました。

当センターから多自然川づくり・生物多様性保全に携わる多くの人材が輩出されてきたことも特筆すべき成果です。各方面で活躍するOB・OGよりメッセージが寄せられましたのであわせてご紹介させていただきます。

自然共生研究センターはこれまで自然共生を実現する研究・技術支援を通じ、その役割を果たしてきました。一方、気候変動に伴う災害の激甚化や頻発化、人口減少など私達の社会や自然環境を取り巻く状況も変化していく中で、自然と共生するとはどういうことなのか？という原点に返った問いが改めて必要な時期ではないかと感じています。開所20年にあたり、初心を忘れず、新たなステージの研究・技術支援に取り組んでいく所存です。今後とも、自然共生研究センターをよろしく願います。

自然共生研究センター長 中村 圭吾